

季刊

AMDA

多様性の共存

Journal

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://homepage3.nifty.com/amdack/>

2009年2月1日 VOL.32 No.1 定価600円
 発行/AMDA 〒701-1202 岡山市橋津310-1
 TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
 E-mail:member@amda.or.jp

2009.2
 WINTER

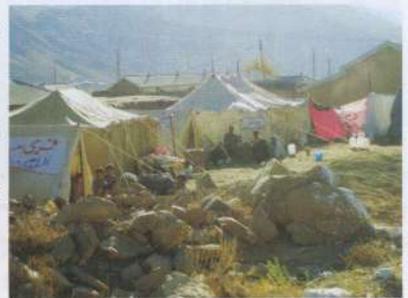
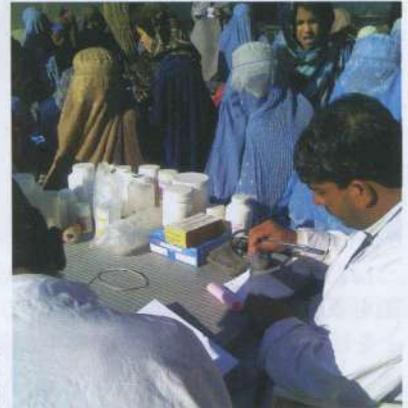
冬

国民参加型相互扶助人道支援外交

パキスタン西部地震被害に対する緊急支援活動



アフガニスタン・カンダハル州スピン・ボルダック県での巡回診療
 医薬品・支援物資(アフガニスタン・カンダハル州スピン・ボルダック県)



パキスタン・バルチスタン州避難民キャンプ

パキスタン・イスラム共和国西部バルチスタン州で2008年10月29日に発生した地震(マグニチュード6.4)の被害は、国連人道問題調整事務所報道部門(OCHA・IRIN)や政府国家災害管理局(NDMA)の発表によると、11月時点で死者約270人・負傷者357人・損壊家屋9,897軒・被災者合計68,200人に上りました。

AMDAは、AMDAパキスタン支部から医療チームを、被害が大きかったバルチスタン州ジアラット地区(クエッタから約110キロ北西)に派遣しました。11月9～12日滞在し、地元当局によって建てられたカワスの避難所の医療クリニック(テント)で約75人の患者を診療しました。災害後に顕著な、うつや興奮、不眠の症状が多くみられ、避難所には産科医や薬剤師がいなかったため、医薬品(100Kg)を地元保健局へ提供しました。地理的に孤立し、小さな集落が散らばる被災地まで、交通事情に詳しいドライバーでも陸路でカラチから2日間かかりました。

また、AMDAアフガニスタン支部の医療チームは、11月22日にパキスタンとの国境に位置するアフガニスタン・イスラム共和国カンダハル州スピン・ボルダック県で6日間医療支

援活動を行いました。392人を診療し、主な疾患は風邪・咳137人(35%)、急性呼吸器疾患72人(18%)、下部尿路感染症72人(18%)でした。

治安状況は非常に悪く、現地の医療スタッフの協力を得ることで実施が可能となりました。

【派遣者】

計17人(医師8人・看護師3人・薬剤師1人・調整員3人・運転手2人) AMDA本部：調整員1人/パキスタン支部：外科医4人(バカイ医科大学病院)・運転手2人(バカイ財団)/アフガニスタン支部：医師4人・看護師3人・薬剤師1人・調整員2人(カブール市の政府系組織AHDS「アフガン保健・開発サービス」他)

スリランカ北部サイクロン被害に対する緊急救援活動

2008年11月25日サイクロン「ニーシャ(Nisha)」がスリランカ民主社会主義共和国北部を直撃し、深刻な豪雨と洪水をもたらしました。ジャフナ県は過去90年で最も多い雨量を記録し、全体で20人の死亡が確認されました。被害が最も甚大だったジャフナ県では33万人が被災し、4万戸が損傷しました(内、約1万戸は全壊)。大洪水により低地の住宅が冠水したため、ジャフナ県だけでも247か所の避難キャンプが設置されました。AMDAスリランカ支部は姉妹団体のセント・ジョンアンピュランスと協力し、ジャフナ県保健局による被災者のための医療活動支援として、約10種類の医薬品(抗生物質、気管支炎・肺炎抑制薬、経口補水薬、抗寄生虫剤等)の提供を行いました。

今回のサイクロンにより、セント・ジョンアンピュラ



ンスのジャフナ研修施設も浸水被害を受けています(写真右)。AMDAは2003～06年に「医療和平プロジェクト」の一環で、内戦後のスリランカ北部で巡回診療や学校保健教育を実施しました。2003～04年にはジャフナ市郊外の2村でコミュニティ復興支援事業を行いました。今回の緊急救援で連携した県保健局やセント・ジョンアンピュランスは、当時のプロジェクト協力機関です。今回のスムーズな連携は、過去の支援活動を活かしたネットワークの存在が大きかったといえます。

「AMDA 国際医科大学 in ネパール」構想と AMDA ネパール子ども病院 10 周年記念式典および合同慰霊祭

「AMDA 国際医科大学 in ネパール」構想とラム・バラン・ヤダブ大統領表敬



← バラン・ヤダブ大統領を表敬

AMDA グループ代表 菅波 茂



レグミ AMDA ネパール支部長、ラム・バラン・ヤダブ大統領、菅波茂 AMDA グループ代表 (右から)

1月15日にラム・バラン・ヤダブ大統領を表敬しました。その席で3つのことを述べました。一つは、2008年8月に発生したネパール・スンサリ郡の大洪水緊急医療支援に派遣されたAMDA医療チームの活動現場に、慰問に来ていただいたことに対する感謝をしました。二つは、AMDA ネパール子ども病院が成功裏に10周年を迎えることができたこと、その象徴として2万人目の出産を報告しました。三つは、AMDA ネパール子ども病院事業だけでなく、ダマック市にあるAMDA病院事業などの実績に基づいた「AMDA 国際医科大学 in ネパール」構想を紹介しました。大統領から「それは私にとっても喜びである。今後もネパールの人たちを助けて欲しい」

とのお言葉をいただきました。ちなみに、大統領はAMDAが1992年にダマック市でブータン難民救援医療活動を実施した時の保健大臣でした。AMDAのことを熟知されていました。

引き続き、AMDA ネパール支部執行部と会議をしました。全員一致のもとに「AMDA 国際医科大学 in ネパール」構想の実現が決定されました。この医科大学は、AMDA ネパール支部のみならずAMDA インターナショナルとしての象徴になります。場所をカトマンズ、ブドワール、ダマックのいずれにするのか。予算をどうするのか。教職員を、あるいは医学生の募集をどうするのか。解決すべき課題が数多くあります。3か月ぐらいかけて、AMDA ネパール支部が計画書を策定する予定です。世界初

の NGO 医科大学を目指します。

ネパールは世界の最貧国の一国です。医療状況も非常に遅れています。反対に、日本は平均寿命世界一です。日本の大学の医学部や看護学部との連携を考えています。一方的に最先端の見識や技術力を提供するだけではなく、若い医師、医学生や看護学生が現地ですぐに医療の原点を再発見することになると思います。IT 技術を応用した遠隔医療による支援体制も新しい視点です。更に、AMDA 各国支部を含めた国際社会からの支援も考えています。それはAMDA 相互扶助ネットワークの一層の拡充を意味します。皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。



水野達夫特命全権大使、小林麻衣子 AMDA 社会開発機構、菅波代表、江口 AMDA 兵庫支部長 (左から)

AMDA ネパール子ども病院 10 周年記念式典および合同慰霊祭 開催

ネパール連邦民主共和国ブトワール市にある母と子の病院 (AMDA ネパール子ども病院) は、阪神大震災被災者の方々の思いと毎日新聞社のご協力を中心にしたご支援により、1998年に開院しました。このたび10周年を迎え、記念式典と合同慰霊祭を開催しました。

当時、ネパールの人口2,000万人に対し、小児科医は約70人でした。小児病院は首都のカトマンズにあるだけで、不衛生な自宅出産のために妊娠中毒などの危険な状態を早期発見できないま

ま出産し、大量出血で死亡する場合も多くありました。乳幼児死亡率は日本の約25倍、妊産婦死亡率は約60倍でした。ネパール政府は90年代から、乳幼児死亡率の減少を最優先課題に掲げ、予防接種などの対策を実施。2006年の乳幼児死亡率は90年に比べ半減しました。しかし、医師などの医療従事者の介助を受ける分娩は19%で、妊産婦死亡

率は改善していません。一方、AMDA ネパール子ども病院の10年間の外来患者は延べ40万人、入院患者も延べ4万人となり、昨年9月には2万人目の赤ちゃんが誕生しました。

現在、AMDA ネパール子ども病院では、ベッド不足や医療環境改善を目指し、周産期病棟を増設中です。引き続き、ご支援をお願い申し上げます。



10周年を祝うイルミネーションでライトアップされた

【AMDA ネパール子ども病院】

Siddhartha Children's and Woman's Hospital 恵まれない子どもと女性のための病院
シッダルタ:お釈迦様のご幼名遠くから伝来した仏教にちなみ、日本とネパールの架け橋にとの想いを込めて命名。

ブトワール市:首都カトマンズから西に約200キロインドの国境近く、交通の要所。
近くにルンビニ(ブッダ生誕地)がある。

1998年11月2日 開院。外来部門がスタート。

1999年入院・救急受け入れ、婦人科開始。

篠原記念小児病棟、新病棟、外来棟他新設を経て、

2009年1月現在 ベッド数:109床 スタッフ:計142人(医師8人・看護師17人他)

2007年7月~2008年7月 外来患者数:37,191 急患患者数:5,460

分娩数:2,638(内、帝王切開961) 婦人科手術件数:1,417 小児科手術数:492

入院:計6,511(小児科3,354 産婦人科2,645 ICU512)

ネパールで迎えた14年目の阪神淡路大震災の日

AMDA兵庫県支部支部長 医師 江口 貴博



シッダールタ君も飛び入り参加したステージ

阪神淡路大震災から14年になる1月中旬に、AMDA兵庫県支部メンバーを中心に総勢27人で、AMDAネパール子ども病院を訪問してきました。

本来10周年のお祝いは昨年11月2日に行うのが普通ですが、今回この1月17日に行ったのには大きな理由がありました。それはこの病院が、阪神淡路大震災の時にいただいた支援に対するお礼として、被災地からの寄付が集まってできた病院だからです。私たちは、その10年の節目にあたって、震災の日の1月17日に、日本人とネパール人とで合同の慰霊祭を行うことを考えました。

阪神淡路大震災では6,434人の方が亡くなられ、震災から14年が経っても、大切な人を失った人々の心はまだ癒えていません。しかしながら、そのお礼で出来たこの病院では、40万人もの女性や子どもたちの病気が癒され、そして2万人もの赤ちゃんが誕生しています。その現地で震災物故者の方々の慰霊を行うことで、少しでも心が癒されるのではないかと考えたのです。そしてまたネパール子ども病院でも、献身的な治療にも関わらず、治療の甲斐なく亡くなった女性たち、子どもたちがいます。そういう女性や子どもたちの慰霊もいっしょに行うことで、お互いに大切な人を思いやる気持ち共有したいと考えました。

今回の慰霊の訪問には、徳川家の菩提寺である高野山蓮花院の東山泰清御住職がボランティアで参加して下さいました。そして、仏教の聖地であるルンビニのアショカ王の塔の前で、日本人一行により、震災物故者およびネパー

ル人物故者に対して、みんなでお祈りを捧げました。この地に発祥した仏教が遠く日本に伝播し、AMDAネパール子ども病院が懸け橋となって、遠い日本からこうして慰霊に訪ねることが出来たことを思うと、とても感慨深いものがありました。

国内線の遅延もあって、プトワールにあるAMDAネパール子ども病院に着いたのは夜7時ごろになっていましたが、遅くなったにもかかわらず、ライトアップされた病院の周りには多くの人が集まり、ネパールの人々による歌と踊りの歓迎に感激しながら、夜は更けていきました。

そして1月17日、朝から合同慰霊祭が始まりました。

まず、江口から今回の合同慰霊祭の趣旨を説明し、そして宗教

の壁や文化的な壁を乗り越えて、一緒に祈りましょうと呼び掛けました。慰霊祭には、ネパールから、仏教、キリスト教、イスラム教そしてヒンズー教と、さまざまな宗教の司祭が顔を揃えて祈りを捧げ、また東山泰清御住職による法要も滞りなく執り行われました。その光景は、宗派や国籍など関係なく、お互いを思いやる心と心が通じ合ったような、そんな感動的なひと時でした。

感動覚めやらぬまま、午後のAMDA

ネパール子ども病院10周年記念式典が始まりました。式典では、ネパールの保健大臣やプトワール市長など、多くの方々からお祝いの言葉をいただきました。そして、新しく建てられた外来棟のオープニングセレモニーでは菅波代表によるテープカットが行われ、また、今後建設予定の周産期病棟の地鎮祭も行われました。私たち日本人からのカルチャープログラムでは、10周年を記念して作成した絵本「ありがとうね」の拡大版を見せながらストーリーをネパール語で朗読し、その内容を披露したところ、会場は明るい笑顔に包まれました。

また今回、ボランティアで同行頂いたファミリーシンガーソングライター、ダ・カーボの皆さんによる演奏も会場を盛り上げました。ダ・カーボさんといえば、いつもチャリティーコンサートで寄付を呼びかけ、またこの



ダ・カーボの皆さんによる演奏

たび、AMDAネパール子ども病院のテーマ曲「命の花」を作って下さり、心から支援をして下さっている方です。会場のみならず、その美しい歌声と、ギター、フルートの音色に魅了されました。そして、「命の花」を会場全員でネパール語により合唱、ステージには、この病院で最初に生まれた子であるシッダールタ君も飛び入り参加し、その盛り上がりは最高潮に達しました。

私たちAMDA兵庫県支部のメンバーは、震災で亡くなった方々や支援して下さい下さった方々の思いを胸に刻みながら、今後もAMDAネパール子ども病院を支援し続けます。これからもご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。



上：AMDAネパール子ども病院で合同慰霊祭（手前は東山泰清権大僧正）
下：仏教の聖地ルンビニにあるアショカ王の塔の前で合同慰霊祭



【スケジュール】

- 1月15日 ラム・バラシ・ヤダブ大統領 表敬
AMDAネパール支部によるレセプション
*来賓：在ネパール日本大使館 水野達夫特命全権大使
- 1月16日 合同慰霊祭 仏陀生誕地ルンビニ
- 1月17日 合同慰霊祭 プトワール市
AMDAネパール子ども病院10周年記念式典 プトワール市

【日本からの参加者】 敬称略

東山泰清（高野山蓮花院 権大僧正 伝燈大阿闍梨）/ 鈴記好博（医師 絵本「ありがとうね」作者）押田芳雅/篠原浪枝/小林真也子/桶川勝記/古閑次夫（神戸須磨ロータリークラブ会長）/古閑淑子/ダ・カーボ（榊原政敏/榊原広子/榊原麻里子/金田良美）
AMDA兵庫県支部 江口貴博/小倉健一郎/桂木聡子/神徳規子/須藤牧衛/須藤とし/中田由紀/中山正紀/中山公江/中山正祥/中山幸子/藤本亜紀子/藤本瑞穂/菅波茂（AMDAグループ代表）/丸山美江（(医)アスカ会 看護介護部長）

【現地参加】AMDA社会開発機構 小林麻衣子

絵本「ありがとうね」
作者の鈴記好博医師（右端）





AMDA 高校生会 オータムコンサート～BRASS IPPATSU～



11月23日岡山大学祭(津島祭)で、岡山大学応援団総部吹奏楽団とAMDA高校生会による合同コンサートが開催されました。

AMDA高校生会は、2007年からAMDA社会開発機構の事業地—AMDAホンジュラスと協力し、「命—自分を守ることは、大切な人を守ること」を合言葉に、HIV・エイズ予防啓発活動を続けています。2008年からは、加えて性感染症の薬の支援活動を進めています。

この活動に賛同してくださった岡大吹奏楽団のご好意により、コンサートを通じて多くの方々にこの活動を知

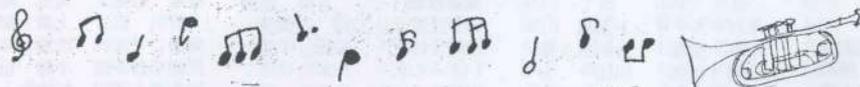
※当日の様子は、AMDAホームページ「ビデオギャラリー」でもご覧いただけます。
<http://amda.or.jp/pub/category0002.html>



ていただければとの思いから企画した、AMDA高校生会として初の合同コンサートでした。

本番当日、団員によるエネルギッシュなサウンドと輝かしいスタンドプレイが披露されました。オープニングはアニメ

ソング「崖の上のポニョ」—思わずにっこりな曲でスタート。ベートーベンの「エグモント」からポップスまで幅広いジャンルで、お楽しみいただきました。AMDA高校生会は約500人のお客様をお迎えして、企画ステージでエイズクイズを実施した他、中南米・ホンジュラスやアフリカ・ザンビアの活動を生演奏と共に映像で紹介しました。クイズの合間にホンジュラスのある中南米のラテンの名曲「テキーラ」を取り入れ、ノリの良い音楽にのってクイズに挑戦していただき、最後に、平和を願いながら「Believe」を全員で合唱。一人ひとりの心に響くサウンドステージとなりました。ご協力くださいました岡大吹奏楽団の皆様、聴きに来てくださった皆様、ありがとうございました。

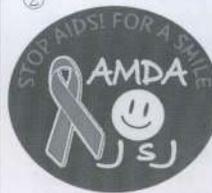


AMDA 高校生会 2008年度活動年表

2008年4月	高校生会パンフレット作成 あすか健康村フェスティバルに参加—ホンジュラス支援の呼びかけ<写真①>
5月	「国際ソロブチミスト岡山愛の基金」の助成金決定 (活動テーマ:エイズ予防啓発・性感染症の薬支援活動)
6月	広島県立福山誠之館高校—文化祭でホンジュラスのパネル展示、募金活動、校内弁論大会においてAMDAの活動を発表
7月	エイズ予防啓発のバッジデザイン作成・決定<写真②>
8月	RSK山陽放送ラジオ「おかやま朝まるステーション1494」に出演
9月	街頭募金活動参加<写真③> (RSKキャンペーン「PEACE for the children～地域、そして戦場～」) 岡山県立総社南高校から物品(CDとゲームソフト)寄付受領
10月	岡山大学医学部保健学科の学生と交流会
11月	岡山大学応援団総部吹奏楽団とオータムコンサート「Brass Ippatsu」 (岡山大学祭(津島祭))<写真④>
12月	街頭募金活動参加 (RSKキャンペーン「PEACE for the children～地域、そして戦場～」) 国際理解セミナー「国際協力と私たち」
2009年2月	予定—あすか健康村音楽祭
3月	予定—募金活動参加(RSKキャンペーンチャリティコンサート「PEACE for the children～地域、そして戦場～」)



①



③

④

2008年10～12月の動き

<講演>

10/8	広島県立御調高等学校
10/21	おかやまコープ備北地域
10/21	岡山県私立秋季研修会(岡山県内私立中学・高校教職員対象)
11/7	岡山県立笠岡商業高等学校
11/8	第二回総社市保健福祉大会
11/9	美作医会特別講演会(美作医会所属医師対象)
11/16	岡山県保険医協会第214回プライマリケア懇話会
11/19	総社市立総社東中学校
11/27	岡山県小学校教育研究会人権教育部会県大会
11/30	医学生ゼミナール中四国(中四国の医学生、医療系学生)
12/4	岡山県立岡山操山中学校
12/5	岡山県井原市立高等学校
12/19	岡山市立光南台中学校

<講義>

11/6	関西福祉大学
11/10・17	岡山商科大学経営学特殊講義(社)岡山経済同友会ボランティアプロフェッサー
11/28・12/5	岡山大学薬学部

<本部訪問>

11/20	岡山大学医学部
11/25	青山学院大学国際交流共同研究センター
12/10	総社市立総社東中学校
12/22	広島県立福山誠之館高等学校

<イベント>

10/3	「finds MINDS—AMDA社会開発機構を知る・世界の今を知る」 ～サイクロン緊急救援活動と社会開発事業の経験から～
11/1	AMDA兵庫支部設立10周年記念イベント「私達の国際協力」 ～AMDAネパール子ども病院10年の歩みとこれからの取り組み～



AMDA 創立25周年記念 **あすか健康村音楽祭**

2009年2月22日(日) 13:00開演 (12:00開場/16:00終演)
岡山シンフォニーホール【大ホール】



入場無料
ご家族・お友達と一緒に
お越しください!

抽選会
アジア小物等を
プレゼント!

ステージ出演者

第1部[13:10~]

- 名刀太鼓(和太鼓演奏)
- 岡山市立庄内小学校(トランペット鼓隊)
- パンフルート「備前の風」(今井 勉・ピアノ:西村一穂)
- 在日外国人の子どもの歌と踊り(フィリピン・ブラジル)

第2部[15:00~] (林原国際芸術祭「希望の星」コンサート)

- 旭川荘ミュージック・アカデミーとくらしき作陽大学
- 熊本マリ(ピアニスト)

抽選会[15:50~]



主催●あすか健康村音楽祭実行委員会 主催団体●アスカグループ・社団法人 林原共済会・社会福祉法人 旭川荘 協賛団体●生活協同組合おかやまコープ・株式会社 ゆうちょ銀行岡山店・全日信託株式会社 後援●岡山県・岡山県教育委員会・岡山市・NHK岡山放送局・山陽新聞社・岡山日日新聞社・朝日新聞岡山総局・毎日新聞岡山支局・読売新聞大阪本社・産経新聞岡山支局・中国新聞備後本社・RSK山陽放送・OHK岡山放送・KSB瀬戸内海放送・TSCテレビせとうち・on!ビジョン・株式会社中野コトタイプ

当日は入場整理券が必要です
●入場整理券1枚でお一人入場できます
●入場整理券は主催団体、協賛団体で取り扱っております

お問い合わせ
あすか健康村音楽祭実行委員会
〒701-1202 岡山市楠津310-1 特定非営利活動法人 アムダ内
TEL086-284-7730

おかやまコープの会員の方々から募金封筒に寄せられたメッセージ

・緊急時に「困ったときはお互い様」というあたたかい気持ちでかけつけるAMDAの活動を心から尊敬しています。私たちの「役に立ちたい!」をこれからもAMDAに託します。おかやまコープとAMDAとの協定は夢でしたので嬉しく思います。応援しています。

・現地ネットワークを持ち、誰よりもいち早く行動できるAMDAは地元岡山の誇りです。末永く活動していただくためできる限りのsupportをしていきます。

・小学校1年の孫が4月からおつりを少しずつためたものです。今回病気の子

供達の為に使っていいよとの事で寄付させていただきます。

・私の子どもの頃に戦争がありました。食べるものも着るものも無く、とてもみじめでした。もう二度と戦争はしてはいけないと思います。世界は平和が一番です。

・高齢にて社会に何のお役にも立ちませんが、毎日感謝の日を送っています。94歳老婆。

・何でも東京中心の現在、岡山という一地方都市に、AMDAという世界に誇る国際貢献活動を行っているNPO法人

岡山県内の小学校から

AMDA 御中
森の木々が色どりに色づき実りが多い季節になりました。
私達美川小学校の六年生は、世界の美しい国や戦争のことを調べ、私達にできることは何か考えました。そして私達は、葉書や切手、レターカードを集めました。そのうち、葉書が134枚、切手が2541円分、レターカードは6枚集まりました。
この活動を通して、多くの方が協力してくださったことが本当にうれしくて、小さな荷物も、大きな集まりの大きな価値があるということを感じました。この集まったもので、困っている人々を少しでも多く助けたいと思います。
これからもっと楽しく活動が、お体に気を付けてお仕事をなさってください。
どうぞよろしくお願いいたします。
11月26日 6年代表 守屋 泉希
矢掛町立美川小学校

があることを誇りに思います。ケーキ1個食べたつもりです。これからも少しずつ協力していきます。

大和ハウス工業健康保険組合様が医療消耗品を寄贈



菅波茂 AMDA グループ代表、大和ハウス工業健康保険組合篠田耕郎常務理事、間野尚志事務長 (右より)

大和ハウス工業健康保険組合様より、マスクや除菌ウェットティッシュ他の医療消耗品を寄贈していただきました。これは、多くの組合員の方々からのご支援により実現したものです。

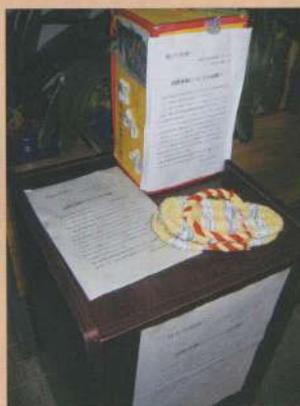
今後、自然災害など緊急救援活動の際、被災者へ医療サービスの提供や支援物資の配布を通して活用させていただく予定です。

ご支援ありがとうございました。

国際理解・協力活動へ大きな地域のちから!

玉野市立東見中学校 竹谷 和子

本校において、ここ5年間国際理解教育について取り組むなかで、最近目に見える形で生徒たちが具体的な国際支援の取り組みを見せています。主な活動として、バングラデシュの学校との交流や自然災害時での緊急募金活動などです。これらの活動が校内だけでなく、この1年の間に地域へ広がり始めました。1月13日、玉野市東見市民センターでの高齢者教室で、ミニコンサートも含めた活動報告を行う機会をいただき、約90人もの方々が熱心に聴いてくださいました。学校と地域を結ぶ市民センターの存在も心強いものです。今後一層、地域の応援や協力が、大きな力になることを確信する年頭の集いとなりました。



(上) 玉野市東見市民センターでの講演

(左) 東見市民センター入口に募金箱とともに置かれているのは、はぎれ布で作られたわらじ。地元の方がわらじを寄贈してくださり、購入金額がこの募金箱に。

AMDA 福山クラブ設立

私たちは1995年から、AMDA本部での後方支援のボランティア活動や、地元でのネパール子ども病院救急車寄贈支援などを続けてきましたが、ここ数年停滞気味でした。

AMDAボランティアセンターからクラブとして活動してはどうかとのアドバイスを受け、昨年11月1日に福山クラブとして新たに出発することになりました。参加メンバーは流動的ですが、サラリーマンパワーで「ボランティアを楽しむ」をモットーに活動していきますので皆様のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

AMDA 福山クラブ クラブ長 藤井逸子

